２５．西美会（庄内西小学校 PTA 会長 OB 会）への「魅力ある学校づくり構想」の説明会・質疑応答（概要）

〇日　時：平成 28 年（2016 年）6 月 3 日（金）19 時～
〇場　所：庄内西小学校　本館 2 階会議室

質問・意見等	豊中市からの回答
「魅力ある学校」づくりは教育委員会だけで検討しているのか。学校だけでなく、市南部をどうしていくのか、市全体で取り組むべきではないのか。	この構想は、教育委員会だけでなく、関係する市長部局、（仮称）南部コラボセンターや地域コミュニティを所管している市民協働部、通学路関係で道路整備等を所管している都市基盤部、市の施策の方針やまちづくりを所管している政策企画部、都市計画推進部、歳入・歳出を所管する財務部などで庁内検討会議を立ち上げて、検討を進めています。ちなみに、市民協働部が所管している（仮称）南部コラボセンターの検討会議に、教育委員会も出席していますし、説明会も同席しています。
魅力ある地域をつくっていかないと人は減り、地域全体が沈んでしまう。市に期待しているのは、学校だけでなく、まち全体も変えてほしいということ。市北部に負けないように南部も魅力あるまちにしてほしい。まちを変えないといけないという気づきを与えてほしい。この資料の図面（配置図等）を見せられても共感できない。学校のことだけ考えて、地図上で考えただけとしか思えない。	ご意見として承りました。
教育に関して、私も思うところがあるが、この西美会では地域のことを話すべきであり、今は置いておく。ちなみに小中一貫教育は個人的に興味があり、市教委の提案に異論はない。学校再編により庄内西小学校が閉校し、例えばその跡地に防災公園が整備されたとしたらどうなるか、想像してみた。やはりこの地域は寂れてしまうのではないか。庄内西小校区の子どもたちが減って、学校が小規模化しているのは、地域の力が落ちていることが如実に表われているのだと思う。市の方で、庄内西小校区をこれからどうしようとしているのか、何等かの指針等があるのか、答えられる範囲で答えてほしい。	先日、5 月 31 日に庁内検討会議があり、その場で跡地活用に関して、庄内地域のまちづくりの観点から検討する必要があると投げかけたところです。2 月の全体説明会以降、さまざまな場所で、さまざまな世代、立場の方に説明し、ご意見をいただいてきました。皆さんからいただいたご意見を大きく分類すると、①通学距離、安全に関すること、②教育内容に関すること、③地域コミュニティに関すること、④跡地の取り扱いに関すること、の 4 点になります。こうしたご意見への返答がないとのお叱りをいただいていますが、いただいた意見をもとに検討したり、作業したりする時間が必要なため、秋頃に何等かの答えをお示ししたうえで、さらに意見をいただきたいと考えています。まちづくりについては、豊中市の事業施策の最上位計画となる総合計画の中で、南部地域のまちづくり、学校再編をリーディングプロジェクトに位置付けて、検討を進めようとしています。ただ、まちづくりの構想は時間がかかるため、秋の説明の際にどの程度の内容を示せるかは不明ですが、少なくとも検討の進捗状況だけでも報告したいと考えています。
第 3 案、6-3 制を維持する案は考えていないのか。説明の中で中一ギャップの話が出たが、自分	小学校の段階で身につけておくべき基本的な生活習慣が具わっていなければ、学力も同様に具わらず、中学校に進学したときに

の子どもの経験で言うと、中学校に進学して自立心が芽生え、成長を実感した。小学校から中学校に進学することで成長するのに、小中一貫によって成長する機会が失われるのではないか。	さまざまな形で顕在化するという傾向があります。生活面と学力面は両輪であり、小中一貫教育によって両方とも成果が報告されています。京都には、庄内地域とは似ている地域で、小中一貫校が整備、運営されており、生活面、学習面とも成果を上げています。
例えば小学校の卒業式は、小中一貫校でも行うのか。	例えば義務教育学校になったとして、小学校 6 年間は前期課程と位置づけられており、小学校課程の 6 年間を修了すれば前期課程修了となります。そのときに、「前期課程修了式」といった儀式を行うことも考えられます。
先ほど教育の話は置いておくといったが、話題になっているので言わせてもらう。私も当初は、庄内西小の子どもたちは良い子なのに、七中に進学すると悪くなってしまうと思っていた。しかし、先ほどの話を聞き出した頃から、その考えは改まった。七中に進学したから悪くなったのではなく、すでに小学 4 年生頃から徐々に要因が産れている。例えば算数ならば、分数あたりから躓く子どもが多い。通分や分数の四則演算など、訳がわからなくなり、その状態で中学校に進学するから授業についていけない、学校がつまらない、その結果として荒れてしまう。市教委が言うように、教育のテコ入れはしなければならない。	確かに「小学校から送り出したときはあんなに良い子だったのに、なぜ中学校であんなことになってしまうのか。」という教職員の意見を聞いたことがあります。あの当時、小中連携はほとんどできていなかったというのが実情でした。 今回の「魅力ある学校」は、小中 9 年間を見通した学習指導、生活指導等と小・中の教職員が一緒に協力して行うため、そのようなことは起こらないものと考えています。
今の庄内西小学校と第七中学校はかなり連携できているのではないか。	小学校の先生は授業の仕方も、生徒指導の方法も中学校とは異なり、一言でいえば「文化」の違いはあると感じています。物理的に離れていることは、教員の負担も大きくなり、さらに進めていくうえでの障壁になっています。小中が一緒になれば、物理的な制約がなくなり、負担を軽減しながら小中連携がさらに進化するものと考えています。
少し話が飛ぶかもしれないが、今、神崎川の対岸(大阪市側)に 700 戸以上ものマンモスマンションが建設されている。大阪市の学校で受け入れることができなければ、豊中の学校、千成小や庄内西小で受け入れることで、小規模課題が緩和されるのではないか。	基本的には大阪市の問題であり、我々が発言する立場にはありませんが、実は大阪市（淀川区）と協定を結んでおり、大島町 3 丁目 11 番の子どもは大阪市立三津屋小、美津島中に区域外就学を認めています。おそらく、本市と同じように、大阪市でも将来推計を算出し、子どもの急増に備えて対応を検討しておられると思われます。万一、大阪市で受け入れられない場合は、豊中市に協議の申し入れがあると考えられます。
学校再編について、自分の意見がまとまらない。決めかねている。構想案のように千成小の方に学校が移れば、地域から子どもたちがいなくなってしまう気がする。学校跡地にマンションを建てようにも、こんな不便なところのマンションを誰が買うだろうか。市教委に聞くが、魅力ある学校とはどんな学校なのか。	個人的には、誰もが笑顔で、楽しく通える学校、さまざまな事情を抱えていても、その違いを超えて、みんなが通うことができる学校、そして保護者や地域の方が自然に学校に集まってくる、いつでも来ることができる学校だと思っています。今の質問は、他地域でもよく聞かれており、平成 26 年度から検討を進めてきた際にワークショップでいただいたご意見を踏まえ、「あきらめない」「夢に向かって頑張る」子どもたちを育む学校をつくってい

	きたい、そういった土台ができれば、庄内地域に愛着や誇りを感じる子どもを育みたい、と答えています。
今の子どもたちはゲームばかりしている。昔はベッタンや竹とんぼ、ベーゴマなど、広場にさまざまな年代の子どもたちが集まって遊んだものだ。ただ、せっかく公園が整備されてもボール遊び禁止なので、子どもたちもかわいそうな面もある。	ご意見として承りました。
我々にとって、今の庄内西小学校こそ「魅力ある学校」である。このままで良いのではないか。	確かに良い学校ですが、その裏には、先生方の頑張りもあります。潜在的に厳しい状況の子どもが多くおり、先生方はその兆候を見逃さずにケアしているから問題が顕在化していません。また、今の状況がいつまで維持できるのかという問題もあります。先生方は、少ない人数の中で協力し合いながら頑張っています。学級数が少なければ教員数も少なくなり、それを市が加配講師で補充しています。しかし、今後も児童数は減少が見込まれ、さらに教員数が減ってしまったり、あるいは転勤等で若い先生も増えていく中で、どこまで現状の力を維持できるのか、わからない等の課題もあります。持続的によい学校であるために、何等かの手を打たなければならないと考え、今回の構想案をご提示しました。
説明や回答の中で小中一貫校のメリットを強調するのは当たり前だが、デメリット、課題もあるはず。今日は西美会の場なので、また別の機会にそのあたりも詳しく話してほしい。	ご意見として承りました。